

読・書・漫・遊

64

愛・蔵・秘・蔵・こ・の・3・冊

3books

人それぞれに本の読み方はあるだろう。
必要に迫られる読書、楽しく心に潤いを与えてくれる読書……
企業人にとっての読書の存在とは。

◎今月の選者
黒川 清

日本学術会議・会長

『東大講義録 文明を解く』
(堺屋太一著、講談社)

『なぜ日本は行き詰ったか』
(森嶋通夫著、岩波書店)

『図説世界の歴史 全10巻』
(J.M.ロバーツ著、創元社)

リーダーよ、歴史のうねりは見えているか

バブルがはじけて15年。日本の景気は中国への輸出増もあつて持ち直しているようだが、本当に元気になるのか。15年前までは「ジャパンアズナンバーワン」その秘密は「産官の鉄のトライアングル」といわれ、誰も疑問を抱いていなかったのに。

9・11から3年。アフガン、イラクを経て、世界と米国の様相は21世紀の初めには予想もしなかった方向へと変わりつつある。人間の文明史から見れば、この1〜2世紀にすっかり世界のあり様は変わったとはいえず、これから世界は、日本はどのよう動くのか。中西輝政氏は『国民の文明史』で、文明は大きな波と小さな60〜70年の波の変化があると

するが、私もその説に賛同する。日本に何が起り、また起りつつあるのかは、文明史的に俯瞰して初めて見える。

堺屋太一氏は『東大講義録』で日本と世界の文明史を解きつつ、近代と20世紀の日本を描く。戦後の日本の近代工業社会は80年頃に終焉しており、次の社会は「知能社会」と予測する。工業社会の成功体験からこの変化に対応できない「鉄のトライアングル」の利権構造と無能な官僚支配社会を解き明かす。豊富な知識に裏打ちされる堺屋氏の論理展開の説得力は強い。日本はヒエラルキー秩序の「個」のない社会から、「個」のネットワーク社会へと

なかなか転換できない。少しずつ変化が見え始めているが、動きは遅い。在英の経済学者の森嶋通夫氏(本稿脱稿直後に逝去)は、20年前に『なぜ日本は「成功」したか?』で、冷戦構造と日米安保の枠組みに政治家と官僚が卑屈なまでに忠実だったことが、成功の一因だと喝破している。近著の『なぜ日本は行き詰ったか』でも、近代日本の歴史を振り返りつつ、20世紀後半の成長の間に経済を世界に開放して国際市場システムの構築に貢献することに失敗し、政府と民間企業の結託、不良投資へのずさんな金融、無数の経済犯罪等が今になって次々と発覚するという、「成功の二因」の背景を示す。そこから現在の症状を分析し、戦後のリーダーのエトス(感銘)を起こさせる普遍性ある道徳的、理性的気品(氣質)の欠如を指摘する。「Noblesse Oblige(高い身分に当然ともなう高い徳、義務)」の精神は、今の日本社会のどこにもない。日本は民主社会ではなく、知識人が指導的役割を演ずるよう形づくられる儒教社会だとすれば、リーダーの道徳観の欠如は決定的な打撃であり、日本は底辺からではなくトップから崩壊する危険が大さいと指摘する。勇気や公明正大さや正直という資質を備えた有能でやる気のある人物は乏しく、道徳水準の崩壊を短期間に取り戻すことは非常に難しい。このようなときには国民の国に対する自信を高めるため、「心ある」人たちによる

右傾化が生じてくるのは歴史的にも極めてありうることで、政界でも学界でもジャーナリズムでもこの兆しが見え始めている。日本に必要なのは個人主義と自由主義の真の本質を教える教育改革だ。しかしこれができたとしても子どもたちが社会のリーダーになるには40〜50年かかるから、21世紀半ばの日本は、生活水準は高いが国際的には重要ではない国だと予測する。「悲愴」と名付けられる日本社会分析のシンフォニーの書である。

大きな世界文明の流れを俯瞰的に知るには、最近逝去した英国の歴史学者J.M.ロバーツの『図説世界の歴史』が読みやすく、楽しめる。著者は西洋文明の世界制覇の19世紀にうまく「西洋化」し、100年前の日露戦争を経て初めて西洋文明に対抗して独立できた国、日本を評価するが、第9巻監修の五百旗頭真氏が指摘するように、日本

の帝国主義は皮肉にも東アジアの植民地解放と第三世界を出現させ、中国革命を成功させ、結果として中国が東アジアの大国となる道を開いたと、論じている。

科学と科学技術の驚異的進歩によつて20世紀に世界はずつかり変貌した。文明は物質的豊かさをもちあつた一方で、1900年に16億人だった人口は20世紀末に60億に達して今も増え続け、エネルギー、食料、水等の地球規模の環境劣化を引き起こす。さらに交通と情報の発達によつて南北格差が広がり、不安と不満が鬱積する。これが21世紀の底流だろう。このような背景で、漂流する日本はどこへ向かうのか。20世紀の日本とアジア諸国、米、ヨーロッパとの関係を文明史的に俯瞰すれば、21世紀の日本の方向は見えている。この歴史のうねりを見てとり、舵をとれるリーダーは現れるのか。



●『東大講義録 文明を解く』(堺屋太一著、講談社) ●『なぜ日本は行き詰ったか』(森嶋通夫著、岩波書店) ●『図説世界の歴史 全10巻』(J.M.ロバーツ著、創元社)